

地域再興政策コンテスト

1 応募者情報入力

地域再興政策コンテストにエントリーされる会員会議所の内容を下記にご記入ください。

ブロック名	愛知ブロック	L O M 名	一般社団法人豊田青年会議所
-------	--------	---------	---------------

2 政策カテゴリー

地域資源の新たな活用

3 政策事業名

さんそん Bike B&B 「自転車、民宿、コミュニティセンター」 都市と山村をむすぶ自転車文化創出

4 政策実施に至る背景

全国の都市部ではロードバイクなどスポーツ自転車のブームに、2020東京オリンピックの波及効果が追風となり、ユーザーのさらなる増加が予想される。ただし、メーカーや販売店のハードの提供に対して、アクティビティやアカデミックなどソフト提供が海外と比べて圧倒的に不足している。これは国内自転車文化の抱える長年の課題であり、豊田市の都市部はもとより、近隣の政令指定都市である名古屋市（人口220万人）においても解決すべき課題であるとする。

一方、「クルマのまち」として知られる豊田市だが、実は市域の7割が森林で自然豊かな農山村を併せ持つ日本の縮図ともいえるまちである。農山村部から都市への人口流出が続く稲武地区では、耕作放棄地や空き家の今後を見据えた潜在的なニーズを抱えつつ、新たな雇用の拡大・定着を目指すとともに、その定着を支援するための地域のあり方の検討、地域の魅力を高める生涯学習活動の推進を通じ、山村活性化を図ることが必要である。Iターン誘致も含めて都市のニーズに応えるべく、都市の企業、団体との協働、関係強化を図る必要がある。

5 政策の目的

稲武地区の財産区である山林を自転車スポーツアクティビティのフィールドとして活用し、着地型観光商品を構築。農山村の自立自活を目指した都市部との協働からなる、新たな地域創世事業による雇用創出とIターン誘致など、複合的要素による地域の課題解決を図る。

6 政策に携わる団体など

- ・企画・監修・運営（NPO法人 チャリンコ活用推進研究会）
- ・都市部アンテナショップ（株式会社 Circles）
- ・稲武地区のIターンアドバイザー（トヨタケ工業株式会社）
- ・都市と農山村の交流コーディネート（おいでんさんそんセンター）
- ・スポーツによる地域活性化促進活動（あいちスポーツコミッション）
- ・山林フィールドワーク協力（豊田森林組合、名古屋大学 大学院生命農学研究科・農学部 稲武フィールド）

7 政策内容の詳細

地域再興政策コンテスト応募者の政策内容で画像などの詳細説明があれば、下記にご記入ください。

※注1 画像につきましては、5枚以内とし画像サイズは20MBまでとする。

※注2 画像サイズが20MBを超えると受け付けられない場合がございます。

政策内容詳細

事業内容

「自転車、民宿、コミュニティセンター」都市と山村をむすぶ自転文化創出

さんそん Bike B&B いなぶ



Bike



Bed



Breakfast

ヤマの豊かな里山フィールドのリノベーション

マチのニーズに応える自転車アクティビティ

そして山村泊の交流から、つながるヤマとマチ



マチ：名古屋市
豊田市



都市と山村をむすぶ
自転車文化



ヤマ：豊田市
稲武地区



目標像

都市と山村が相互に補完、刺激しあう関係づくり

- ・都市の自転車文化のニーズに応える山村へ
- ・新たなライフスタイルを提案する山村へ
- ・多様な人材を受け入れる、開かれた山村へ

農山村の自立自活を目指した都市部との協働と

新たな地域創生事業による雇用創出とＩターン誘致



※稲武地区での成功実績から、事業をパッケージ化する事は可能であり、
豊田市の他の山村地区にて、同様の事業を展開できる期待値がある

ベッド・アンド・ブレイクファスト (bed and breakfast) とは、イギリスや北米、アイルランド、ニュージーランド、オーストラリアなど、主に英語圏各国における（多くの場合小規模な）宿泊施設で、宿泊と朝食の提供を料金に含み、比較的低価格で利用できるものこと。
B&B は家族経営による小規模な宿泊施設である。通常の住宅・民家をリノベーションして営業している宿が多い。

➤ 拠点整備およびプログラム展開イメージ



➤ 事業展開イメージ

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
 ヤマ側：稲武地区	<ul style="list-style-type: none"> 山林フィールドワーク MTBコース選定 農村民泊企画 交流イベント 企画PR活動 リノベーション対象選定 	<ul style="list-style-type: none"> MTBコース整備～ライド アクティビティ試験実施 現地ガイド育成 農村民泊 交流イベント リノベーション実施調整 	<ul style="list-style-type: none"> MTBコース整備～ライド 地域の運営連携調整 Bike B&B スタッフ選定 施設工事着手 ↓ Bike B&B 始動
 マチ側：名古屋市 豊田市	<ul style="list-style-type: none"> 山村へのツーリング企画 販売店との協働 各種山村企画の募集案内 交流イベント 企画PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> 山村へのツーリング企画 企業、販売店と協働調整 各種山村企画の募集案内 交流イベント 企画PR活動 アンテナショップ選考 	<ul style="list-style-type: none"> 山村へのツーリング企画 企業、販売店と協働開始 Bike B&B スタッフ選定 施設工事着手 ↓ 3B アンテナショップ始動

独自性

都市と山村が協働して築く自転車スポーツアクティビティは、既存の農林業と合わせ「都市在住の山村アクティビティガイド」、「林業と自転車スポーツライフ」や「山村ガイド兼B&B宿主」など、複合的で新たな農山村ライフスタイルを、それぞれの地域に住まう人々に提案する事になる。

また、観光資源の十分な活用できていない事から、民泊の可能性を低く捉えている豊田市に対する逆転の発想での滞在型資源の創出。そして、愛知県の北東端で都市部と山村部が協働した新事業が起きる事、合わせて県下はもとより全国にインパクトをあたえる事業と考える。

活用する制度・税制優遇など（国への要望含む）

活用する制度

・わくわく事業（地域資源を活用し、地域課題の解決や地域の活性化に取り組む団体を支援する、豊田市の地域活動支援制度。初期の実行ステップにて地域の自立自活のきっかけとする）

税制優遇（国への要望）

・旅館業法における農家民宿、体験民宿のあり方

農家民宿は旅館業法に基づく「簡易宿泊営業」において、農林漁業体験民宿（農村休暇法に定義される「施設を設けて人を宿泊させ、農林水産省令で定める農林漁村滞在型余暇活動に必要な役務を提供する営業」を指す）として区分されている。これにより、客室延床面積が33㎡未満の小規模な農家民宿、体験民宿は、農林漁業者はもとより、それ以外の個人・団体にとって一般の民宿に比べて開業しやすくなっている。

（平成15年 全国における規制緩和）

ただし、農家民宿、体験民宿には農林漁業体験が必須である事から、都市部における山村部への多様なニーズに対して、柔軟性のある規制緩和とは言えなくっている現在である。地域振興やIターン誘致の観点より、農山村にある魅力の掘り起こしを図るため、地域の特色を活用した様々な体験提供についても、旅館業法における農林漁業体験民宿のあり方を今一度見直し、緩和する方向で考えていただきたい。

財政計画

政策内容の詳細の事業展開イメージにあるように、初期の実行ステップはボランティアスタッフを多用した運営、農村民泊や遊休施設の利活用などで支出をおさえ、控えめな目標を立て早期に資金を回収し、実績や成功体験を築きながら事業を拡張していく。その実績をもって助成金の獲得、協賛金や寄付金を募る事で実行ステップを進める事業予算を確保していく。そして最終ステップにおいては国の補助金制度、都市、山村それぞれより出資、融資を得て Bike B&B（ヤマ側）と B&B アンテナショップ（マチ側）の施設施工、常勤職員の確保を進めて事業の本稼動とする。

【初期の実行ステップにおける収入要素】

- ・スポーツ自転車アクティビティガイド、農山村体験、食事付き農村民泊：22,000円
- ・スポーツ自転車アクティビティガイドのみ（1日）：9,000円

※ガイド、及び宿泊の料金は北米、英国の単価相場を参考にし、事業ステップアップへの寄付金も加味した料金とする。いずれも一人あたりの料金で、多人数参加でのディスカウント有り。

- ・スポーツ自転車レンタル：3,000円（一台）
- ・スポーツ自転車クロック&メンテナンスサービス：20,000円（一台/年）

- ・山林フィールドワーク付き食事付き農村民泊：7,000円
- ・都市と山村の交流を目的としたアカデミック：3,500円
- ・Bike B&B（ヤマ側）でしか入手できないアイテム、特産品の販売

8 地域情報・調査入力

まずは、地域の情報を調査し、現状の確認を行ってください。

地域の人口推移

豊田市は平成17年平成の大合併において、人口35万から40万都市となり、愛知県下2位の人口を有するまちとなった。その後、高度経済成長により9%台の増加傾向が続いていたが、2008年のリーマンショックを機に、社会増加率がマイナスに転じ、現在では、自然増加率と社会増加率を合わせると全体では微増となっている状況である。その中でも稲武地域においては、昭和25年の6,000人をピークに年々減少傾向にあり、平成17年の合併以降10年で2.5%の急激な人口減少がおきており、現在では2,537人まで減少している。

産業構造の変化

豊田市の産業構造の変化を2003年から2007年のデータで比較してみると、製造業の割合が66.8%から72%と5.2%増加している。稲武地区では、2000年には農林業が13.3%、製造業が17.5%、サービス業が27.5%であったのに対し、2010年には農林業15%、製造業15%、サービス業30%と産業構造自体に大きな変化は見られない。

地方交付税の状況

豊田市の平成25年度一般会計歳入額は、地方交付税が、7,162,228（千円）となっており、前年からの伸び率としては-14.7%となっている。

財政状況

豊田市の財政状況を平成25年度決算値でみると、市税においては個人市民税が前年度より増加したため、市税決算額は約12億円増の868億となった。しかし、平成21年度以降、法人税の大きな減少により現状は厳しい財政状況が続いている。貯蓄においては、平成21年度には518億あった貯蓄が平成25年には342億と毎年減少傾向にあり、市債は平成24年度まで増加してきたが、平成25年度は黒字に転換した。また、財政力指数では中核都市において1位となる1.02となるが、年々、1に近づいてきている状況である。稲武地域においては、昭和52年度の財政力指数0.24から、昭和59年度0.74まで大きな伸びを見せたがこれは、中部電力の発電所施設設置に伴う大規模償却資産による固定資産税の伸びによるものであった。その後、財政力指数は昭和61~63年度平均0.64、平成5~7年度平均0.44、平成12年度は0.40と下降したが、平成16年度は0.50と上昇した。国や地方の財政状況がますます厳しさを増す中、地方分権の進展により全国一律の行政サービスから、地域の実情やニーズに合った、独自のサービスの提供へと転換していく中、行財政運営の効率化に努めている。

日本創成会議が発表した消滅可能性都市に該当していますか。

該当していない

該当している

一部の地域が該当している

主要産業とその状況について

産業については、大規模な農地となるような平地が少ないことから戦後は林業が基幹産業として発展してきた。しかし、高度経済成長を契機に、地域住民の所得構造は農林業からトヨタ自動車を中心とする都市部の給与所得にシフトしていき、輸入木材増加、材木価格の低迷により、現在の林業は低迷の一途をたどっている。平成2年には農家人口が1923人だったのが、平成12年には1259人、平成17年には889

人と年々減少している。林業においても、稲武地域では区域の森林率は87%に対し、人口林率も78%と高い数字だが、林業後継者がいないことや、林業労働者の高齢化が進んでいる。工業においては、豊田市全体で工場数は1392件に対して稲武地域では16工場、339人が労働に従事している。サービス業においては、稲武地域では416人が従事しており、サービス業従事者が微増している。これらは、「どんぐりの里いなぶ」が好調に展開されている結果ではないかと考える。

地域の強みを記入してください。(地域資源、観光、伝統、文化など)

稲武地区では、豊かな自然を活かしたまちづくり政策が積み重ねられてきた。具体的にはしだれ桜、紅葉、国定公園に指定された原生林などの観光スポットに関するPRや、「どんぐりの里いなぶ」を始めとする稲武の特産品の直売所の整備、週末帰農や定年帰農、農業のある暮らしに憧れる若い世代の取り込みなど。平成27年1月に国土交通省が経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールと位置づけ、関係機関と連携して特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施している「重点道の駅」選定において「どんぐりの里いなぶ」が全国で35個所の1つ選ばれる(愛知県では1個所)ほど、地域の農産物を直売し、また併設した温泉施設もにぎわいをみせ、多数の観光客が毎年稲武地区に訪れている。自動車関連企業として過疎化地域の歯止め事業の一貫として企業誘致されたトヨタ株式会社等、働く場所も併せ持つ農山村地域である。

地域の弱みや課題を記入してください。

稲武地区は豊田市街地から距離にして35Km、時間にして約1時間の位置にあり、豊田市内では一番遠い地域に属し、若い世代の労働者人口が少ないことから、労働者の高齢化、人口の過疎化等の問題を抱えている。また農林業の低下により、放棄森林の増加は洪水などの原因となり、環境保全面からも危険性が指摘され、産業・環境の両側面から捉えるべき問題となっている。

国際性の可能性

豊田市は、総人口42万人に対して外国人1.3万人、3.13%の人口比率であり、外国人総人数でみると、愛知県内で3番目に多く、全国では29番目に多い市区町村(平成25年3月住民台帳調べ)である。外国人自然増加数は全国で12番目にあることから、外国人人口が現在も増加傾向にあり、今後も国際性の可能性は高い都市と考えるが、稲武地域においては、外国人人口は58人と稲武地区の2.3%と豊田市全体から比較すると少ないといえる。